

学生生活関連施設

「C スクエア」の竣工に寄せて



学長 すみだくにしげ
角田邦重

このたび、多摩キャンパスに学生生活関連施設「C スクエア」が竣工されました。先日竣工したグリーンテラス、白門プロムナードから絶好の場所に位置するのがこの学生生活関連施設です。モノレール駅からこの建物に至る景観は、中央大学の新しい顔、表玄関として、これが中央大学かと思えるほどであります。1978年に文科系4学部が多摩キャンパスに移転してから25年目にして、初めて学生諸君に潤いと憩いを提供するにふさわしい建物ができました。このことは、学長として、また学友会会長として誠に喜ばしい限りであります。関係者の努力に対して、深く感謝したいと思います。

これまでの多摩校舎の建物は、ある種機能を重視した四角い造りに対して、この建物は、曲線や空間をうまく用いて「和み、ゆとり、広がり」といった余裕のある雰囲気を出しております。5階からなるこの建物には、一般学生や学生サークルの共用施設として、会議室、中・小ホール、音楽練習室、ギャラリー、和室、屋外ステージ、トレーニングルームなどが、また、学友会関連施設として、サークル室や会議室が設けられております。これらの施設の利用は、学友会所属団体や予め登録された学生有志団体のほか、学生個人も利用できることになっております。この建物によって、学生諸君が課外活動を通じて、人間性を育成し豊かな人間関係を築く場所として大いに活用し、学生生活をより実りあるものにすることを願っております。

さて、現在学長室には「和気堂に満つ」と書かれた額が掛かっております。この学生生活関連施設の建設構想が検討され始めた当時、総長であった故高木友之助先生がお書きになられたものです。学生のための建物ができた暁には、そこに掲げることを念頭に置いてしたためられたものでした。それだけにわたくしたちが念願していたその建物の完成には感慨無量のものがあります。このゆとりの空間に学生諸君の和やかで活気がみち溢れる、まさに「和気堂に満つ」中から、21世紀の新たな学生文化が生み出されることを期待してやみません。

この建物を中央大学の新しいシンボルとして、また21世紀のコンセプトである「学生第一主義」のシンボルとして、学生諸君に末永く愛されることを願っております。